

一般社団法人インクルDキッズステーション蒼組運営規程

(事業の目的)

第1条 一般社団法人インクルDが開設する地域密着型通所介護事業所「ワークステーション蒼組」と一体で行うキッズステーション蒼組（以下「事業所」という。）が行う指定共生型放課後等デイサービス（以下「事業」という。）の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関することを定め、事業所の従事者が、通所給付決定保護者及び障害児に対し、適正な共生型放課後等デイサービスを提供することを目的とする。

(運営の方針)

- 第2条 事業所は、通所給付決定保護者及び障害児の意向、障害児の特性、障害の特性その他の事情を踏まえた計画（以下「通所支援計画」という。）を作成し、これに基づき障害児に対して指定通所支援を提供するとともに、その効果について継続的な評価を実施することその他の措置を講ずることにより障害児に対して適切かつ効果的に指定共生型放課後等デイサービスを提供する。
- 2 事業所は、障害児の意思及び人格を尊重して、常に当該障害児の立場に立った指定共生型放課後等デイサービスの提供に努める。
 - 3 事業所は、地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、県、市町村、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に規定する障害福祉サービスを行う者、児童福祉施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に努める。
 - 4 事業所は、障害児の人権の擁護、虐待防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行い、従業者に対し研修を実施する等の措置を講ずる。
 - 5 事業所は、介護保険における地域密着型通所介護ワークステーション蒼組と一体で運営するため、高齢者の自立支援と障害児の療育において、双方が与える影響を鑑みて、影響や効果を十分に配慮した事業運営に努める。
 - 6 事業の実施に当たっては、前4項の他、関係法令等を遵守する。

(事業所の名称等)

第3条 事業を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとする。

- 1 名称 キッズステーション蒼組
- 2 所在地 綾瀬市深谷中 7-26-20（ふらっとテラス中村内）

(従業者の職種、員数及び職務内容)

第4条 事業所に勤務する職員の職種、員数及び職務内容は次のとおりとする。

- 1 管理者 1名（ワークステーション蒼組管理者と兼務）
管理者は、事業所の従業者の管理及び業務の管理を一元的に行うとともに、

事業所の従業者に対し法令等を遵守させるために必要な指揮命令を行う。

2 生活相談員 4名（常勤兼務2名・非常勤兼務2名）

生活相談員は指定地域密着型通所介護計画の作成、及び指定共生型放課後等デイサービスにかかる通所支援計画（以下「放課後等デイサービス計画」という。）の作成に関する業務の他に、常に障害児の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、障害児又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行う。また、他の従業者に対する技術指導及び助言を行う。

3 児童指導員、保育士 2名以上（常勤職員1名以上、非常勤職員1名以上）

児童指導員、保育士は、指定共生型放課後等デイサービスの提供を行う時間帯を通じて、専ら指定共生型放課後等デイサービスの提供に当たる。

4 介護職員 7名以上（常勤職員1名以上、非常勤職員6名以上）

介護職員は、当該事業所を利用する高齢者及び障害児障害児の日常の介護を行う。

5 看護職員兼機能訓練担当職員 5名以上（非常勤職員5名以上）

看護職員は、当該事業所を利用する高齢者及び障害児の健康管理、必要に応じて医師の指示に基づく医療処置、アドバイス等を行う。

6 調理員 3名以上（非常勤職員3名以上）

調理員は、当該事業所を利用する高齢者及び障害児の昼食の調理を行う。

7 運転員 3名以上

運転員は、当該事業所を利用する高齢者及び障害児の送迎及び日中活動の運転を行う。

（営業日及び営業時間）

第5条 第6条 事業所の営業日、営業時間、サービス提供日及びサービス提供時間は、次のとおりとする。

- 1 営業日 1月1日から3日、8月中旬の3日（当該年度ごとに日程を決定）及び12月29日から31日を除く、月曜日から土曜日までとする。
- 2 営業時間 祝日を含む月曜日から土曜日 午前8時30分から午後5時
学校休業日 午前8時30分から午後5時
- 3 サービス提供時間 祝日を含む月曜日から土曜日 午後3時から午後5時
学校休業日 午前10時から午後3時

（指定共生型放課後等デイサービスの定員）

第6条 事業所の指定共生型放課後等デイサービスの定員は、次のとおりとする。

事業所全体の利用定員；18人（指定地域密着型通所介護の定員内で受け入れを行う）

- 2 事業所は、前項の定員及び指導訓練室の定員を超えて指定共生型放課後等

デイサービスの提供を行わないものとする。ただし、災害、虐待その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りではない。

(主たる対象とする障害の種類)

第7条 事業所は、主たる対象とする障害の種類を以下のとおりとする。

発達障害児 知的障害児 心身障害児 視覚障害児

(指定共生型放課後等デイサービスの内容及び指定共生型放課後等デイサービス計画の作成)

第8条 この事業所が提供する指定共生型放課後等デイサービスの提供方法は次のとおりとする。

- (1) 事業所は、放課後等デイサービス計画に基づき、障害児の心身の状況に応じて、その者の支援を適切に行うとともに、指定共生型放課後等デイサービスの提供が漫然かつ画一的なものとならないように配慮する。
 - (2) 従業者は、指定共生型放課後等デイサービスの提供に当たっては、懇切丁寧を旨とし、通所給付決定保護者及び障害児に対し、支援上必要な事項について、理解しやすいように説明を行う。
 - (3) 事業所は、自ら指定共生型放課後等デイサービスの質の評価を行うとともに保護者による評価を受けて、提供するサービスの質の改善を図り、その結果をホームページ上その他の方法により公表するよう努めるものとする。
- 2 この事業所は以下のとおり放課後等デイサービス計画を作成する。
- (1) 生活相談員は、放課後等デイサービス計画の作成に当たっては、適切な方法により、障害児について、その有する能力、その置かれている環境及び日常生活全般の状況等の評価を通じて通所給付決定保護者及び障害児の希望する生活並びに課題等の把握（以下「アセスメント」という。）を行い、障害児の発達を支援する上で適切な支援内容の検討を行う。
 - (2) 生活相談員は、アセスメントに当たっては、通所給付決定保護者及び障害児に面接を行う。この場合において、生活相談員は、面接の趣旨を通所給付決定保護者及び障害児に対して十分に説明し、理解を得る。
 - (3) 生活相談員は、アセスメント及び支援内容の検討結果に基づき、通所給付決定保護者及び障害児の生活に対する意向、障害児に対する総合的な支援目標及びその達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、指定共生型放課後等デイサービスの具体的内容、指定共生型放課後等デイサービスを提供する上での留意事項その他必要な事項を記載した放課後等デイサービス計画の原案を作成する。この場合において、障害児の家族に対する援助及び事業所が提供する指定共生型放課後等デイサービス以外の保健医療サービス又は福祉サービスとの連携も含めて放課後等デイサービス計画の原案に位置付けるよう努める。
 - (4) 生活相談員は、放課後等デイサービス計画の作成に当たっては、障害児

に対する指定共生型放課後等デイサービスの提供に当たる担当者等を招集して行う会議を開催し、放課後等デイサービス計画の原案について意見を求める。

- (5) 生活相談員は、放課後等デイサービス計画の作成に当たっては、通所給付決定保護者及び障害児に対し、当該放課後等デイサービス計画について説明し、文書によりその同意を得る。
- (6) 生活相談員は、放課後等デイサービス計画の作成をした際には、当該放課後等デイサービス計画を通所給付決定保護者に交付する。
- (7) 生活相談員は、放課後等デイサービス計画の作成後、放課後等デイサービス計画の実施状況の把握（障害児についての継続的なアセスメントを含む。以下「モニタリング」という。）を行うとともに、障害児について解決すべき課題を把握し、少なくとも6ヶ月に1回以上、放課後等デイサービス計画の見直しを行い、必要に応じて、当該放課後等デイサービス計画の変更を行う。
- (8) 生活相談員は、モニタリングに当たっては、通所給付決定保護者との連絡を継続的に行うこととし、特段の事情のない限り、次に定めるところにより行う。
 - ア 定期的に通所給付決定保護者と障害児に面接する
 - イ 定期的にモニタリングの結果を記録する
- (9) 第2項(1)から(6)までは放課後等デイサービス計画の変更についても準用する。

(通所給付決定保護者から受領する費用の種類及びその額)

第9条 事業所は、指定共生型放課後等デイサービスを提供した際は、通所給付決定保護者から当該指定共生型放課後等デイサービスに係る利用者負担額の支払いを受けるものとする。

- 2 事業所は、法定代理受領を行わない指定共生型放課後等デイサービスを提供した際は、通所給付決定保護者から、こども家庭庁が定める費用の額の支払を受けるものとする。
- 3 事業所は、前2項の支払いを受ける額のほか、指定共生型放課後等デイサービスにおいて提供される便宜に要する費用のうち、次の各号に掲げる費用の額の支払を通所給付決定保護者から受けることができるものとする。この場合の利用料金については、別表に定める。
 - (1) 日用品費
 - (2) 日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、通所給付決定保護者に負担させることが適当であるもの
- 4 事業所は、前3項の費用の支払を受けた場合は、当該費用に係る領収書を当該費用の額を支払った通所給付決定保護者に対して交付する。
- 5 事業所は、第3項に掲げる費用に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、通所給付決定保護者に対し、当該サービスの内容及び費用について

説明を行い、通所給付決定保護者の同意を得る。

(通常の事業の実施地域)

第10条 通常の事業の実施地域は次のとおりとする。

綾瀬市全域 大和市代官 大和市福田

(サービス利用に当たっての留意事項)

第11条 サービスを利用するに当たって、通所給付決定保護者は宗教活動や営利を目的とした勧誘、暴力行為その他、他の通所給付決定保護者及び障害児に迷惑を及ぼす言動を行ってはならないものとする。

(緊急時における対応)

第12条 事業所の従業者は、指定共生型放課後等デイサービスの提供中に障害児の病状の急変、その他緊急事態が生じたときは、速やかに主治医及び家族に連絡する等の措置を講ずるとともに、管理者に報告する。主治医への連絡等が困難な場合は、医療機関への緊急搬送等必要な措置を講ずる。

(非常災害対策)

第13条 事業所は、防火管理者を定めるとともに、非常災害が起きた場合に備えて、消防計画及び風水害、地震などに対処するための計画を策定する。

2 事業所は、前項の計画に基づいて、年に2回避難・救出訓練を行う。

(苦情解決)

第14条 提供した指定共生型放課後等デイサービスに関する障害児又は通所給付決定保護者その他の当該障害児の家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受付けるための窓口を設置するものとする。

2 事業所は、前項の苦情を受付けた場合には、当該苦情の内容等を記録する。

3 事業所は、提供した指定共生型放課後等デイサービスに関し、児童福祉法の規定により、都道府県知事が行う報告若しくは帳簿書類その他の物件の提出若しくは提示若しくは提出の命令又は当該職員からの質問若しくは事業所の設備若しくは帳簿書類その他の物件の検査に応じ、及び障害児又は通所給付決定保護者その他の当該障害児の家族からの苦情に関して都道府県知事等が行う調査に協力するとともに、都道府県知事等から指導又は助言を受けた場合には、当該指導又は助言に従って必要な改善を行う。

4 事業所は、都道府県知事等から求めがあった場合には、前項の改善の内容を都道府県知事等に報告する。

5 事業所は、社会福祉法第83条に規定する運営適正化委員会が、同法第85条の規定により行う調査又はあっせんに協力するものとする。

(虐待の防止のための措置に関する事項)

第15条 利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、次の措置を講ずるものとする。

- (1) 虐待の防止に関する責任者の選定及び設置
- (2) 従業者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施
- (3) 虐待の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）の定期的な開催及びその結果の従業者への周知
- (4) 虐待防止委員会への参加

（身体的拘束等の禁止）

第16条 事業所は、サービスの提供に当たっては、利用者又は他の利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体的拘束等」という。）を行わない。

- 2 事業所は、やむを得ず身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録する。
- 3 事業所は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講ずる。
 - (1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的で開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。
 - (2) 身体拘束等の適正化のための指針を整備する。
 - (3) 身体拘束等適正化委員会へ参加する。
 - (3) 従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施する。

（感染症対策に関する事項）

第17条 事業所において感染症が発生し又はまん延しないように、次の措置を講ずるものとする。

- (1) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）の定期的な開催及びその結果についての従業者への周知
- (2) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針の整備
- (3) 感染症対策委員会への参加
- (4) 従業者に対する感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練の定期的な実施

（業務継続計画の策定に関する事項）

第18条 感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する必要なサービス提供を継続的に実施するため及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（業務継続計画）を策定し、必要な措置を講ずるものとする。

- 2 従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施するものとする。
- 3 定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

(安全計画の作成等)

第19条 事業者は、障害児の安全の確保を図るため、事業所ごとに、事業所の設備の安全点検、従業者、障害児等に対する事業所外での活動、取組等を含めた事業所での生活その他の日常生活における安全に関する指導、従業者の研修及び訓練その他事業所における安全に関する事項についての計画（以下この条において「安全計画」という。）を策定し、当該安全計画に従い必要な措置を講じるものとする。

- 2 事業者は、従業者に対し、安全計画について周知するとともに、前項の研修及び訓練を定期的実施するものとする。
- 3 事業者は、障害児の安全の確保に関して保護者との連携が図られるよう、保護者に対し、安全計画に基づく取組の内容等について周知するものとする。
- 4 事業者は、定期的に安全計画の見直しを行い、必要に応じて安全計画の変更を行うものとする。

(その他運営に関する重要事項)

第20条 事業所は、従業者の資質向上のため研修（第14条から前条に規定する研修の内容を含む。）の機会を次のとおり設けるものとし、また、業務体制を整備する。

- (1) 採用時研修 採用後6ヶ月以内
- (2) 継続研修 年1回以上
- 2 従業者は、正当な理由なく、その業務上知り得た障害児又はその家族の秘密を漏らしてはならない。
- 3 従業者であった者に、業務上知り得た障害児又はその家族の秘密を保持させるため、従業者でなくなった後においてもこれらの秘密を保持するべき旨を、従業者との雇用契約の内容とする。
- 4 事業所は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に規定する指定障害福祉サービス事業所等その他の福祉サービスを提供する者等に対して障害児又はその家族に関する情報を提供する際には、あらかじめ文書により当該障害児又はその家族の同意を得ておく。
- 5 事業所は、従業者、設備・備品及び会計に関する諸記録を整備するとともに、障害児に対する放課後等デイサービスの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該指定共生型放課後等デイサービスを提供した日から5年間保存する。
 - (1) 提供した指定共生型放課後等デイサービスに係る必要な事項の記録
 - (2) 放課後等デイサービス計画

- (3) 市町村への通知に係る記録
- (4) 身体拘束等の記録
- (5) 苦情の内容等の記録
- (6) 事故の状況及び事故に際してとった処置についての記録

6 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は一般社団法人インクルDと事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

別表 実費負担となるサービスについて（第8条関係）

サービス	費用
創作活動材料費	創作活動等における材料の実費
食費及びおやつ代	昼食に係る調理及び食材料に係る費用として 700円
おやつ代のみ	おやつに係る費用として50円
おむつ代	130円
パット代	30円
通常の事業の実施地域を超える場合の送迎費	無料